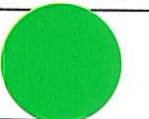


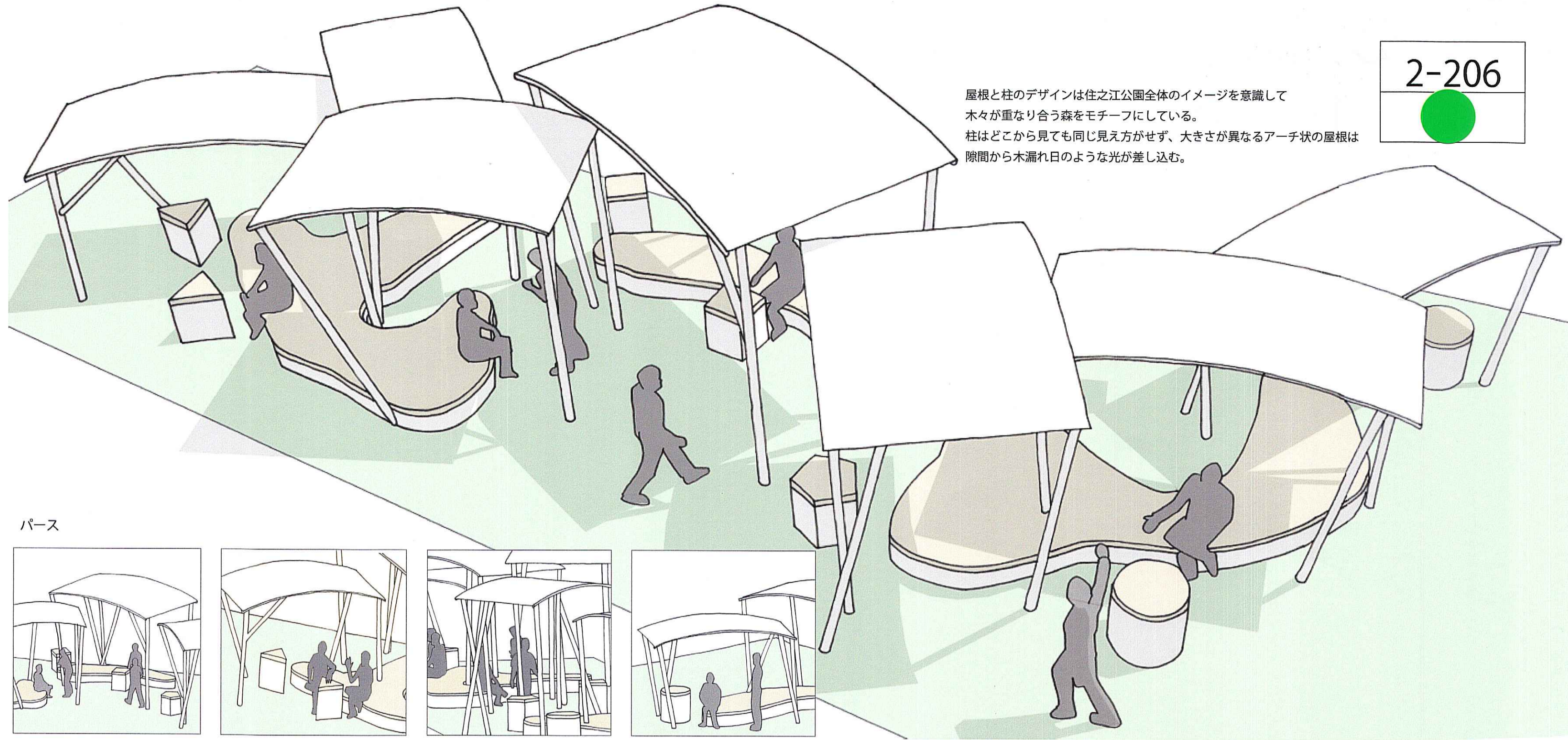
# 重なり、繋がる

2-206

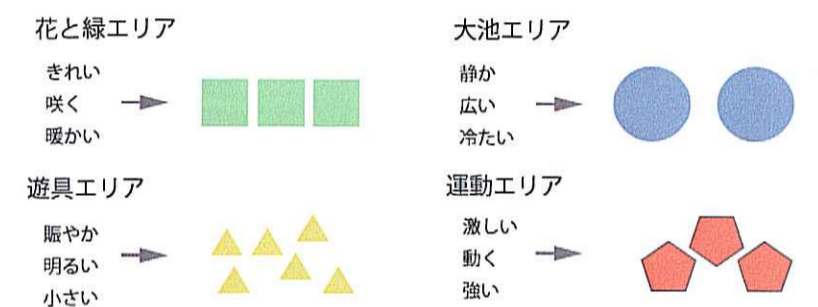
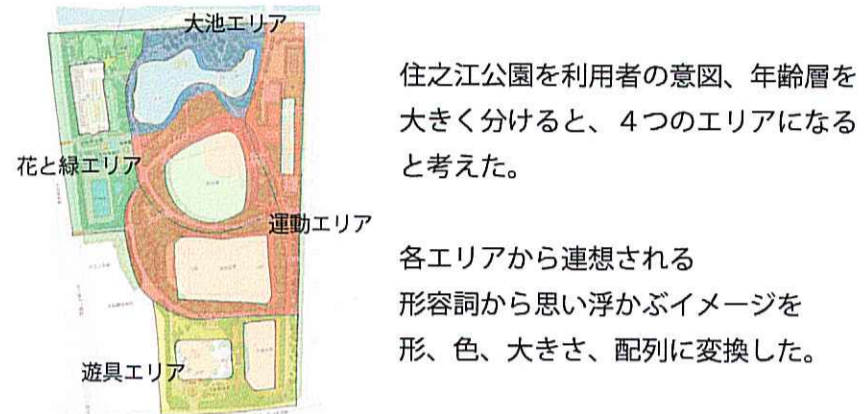


住之江公園を散策した際、全体に緑が多く、まさに都会のオアシスのような公園だと思った。しかし、公園の利用者が場所ごとに分散しており、公園全体を利用していないことをもったいなく感じた。そこで、休憩所のみで完結するのではなく、休憩所が各場所をつなぐ接着剤になり、気づくと公園全体を利用してしまおうような仕掛けを作ることで、住之江公園が一つの大きな休憩所になる提案。

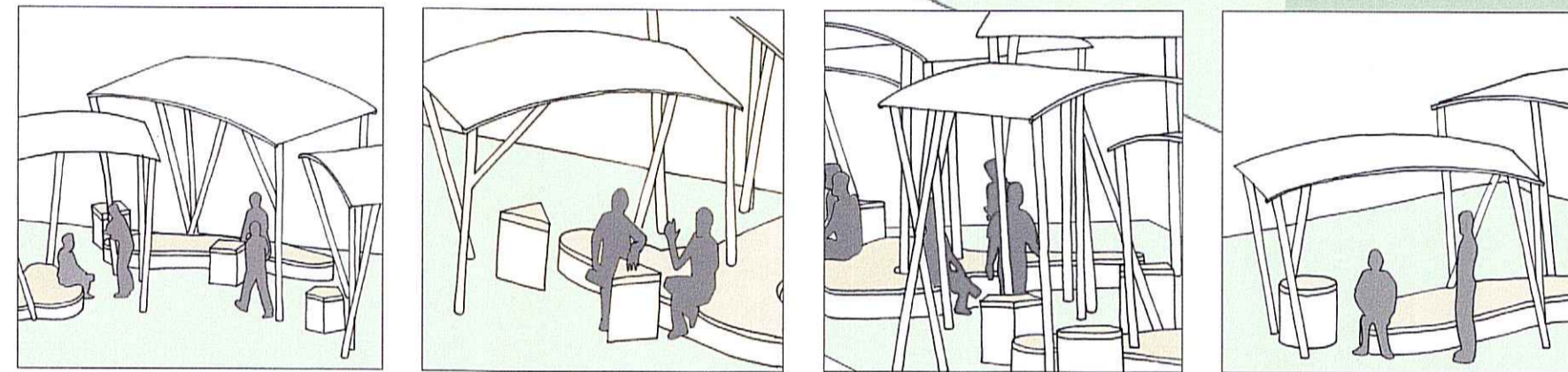
屋根と柱のデザインは住之江公園全体のイメージを意識して、木々が重なり合う森をモチーフにしている。柱はどこから見ても同じ見え方がせず、大きさが異なるアーチ状の屋根は隙間から木漏れ日のような光が差し込む。



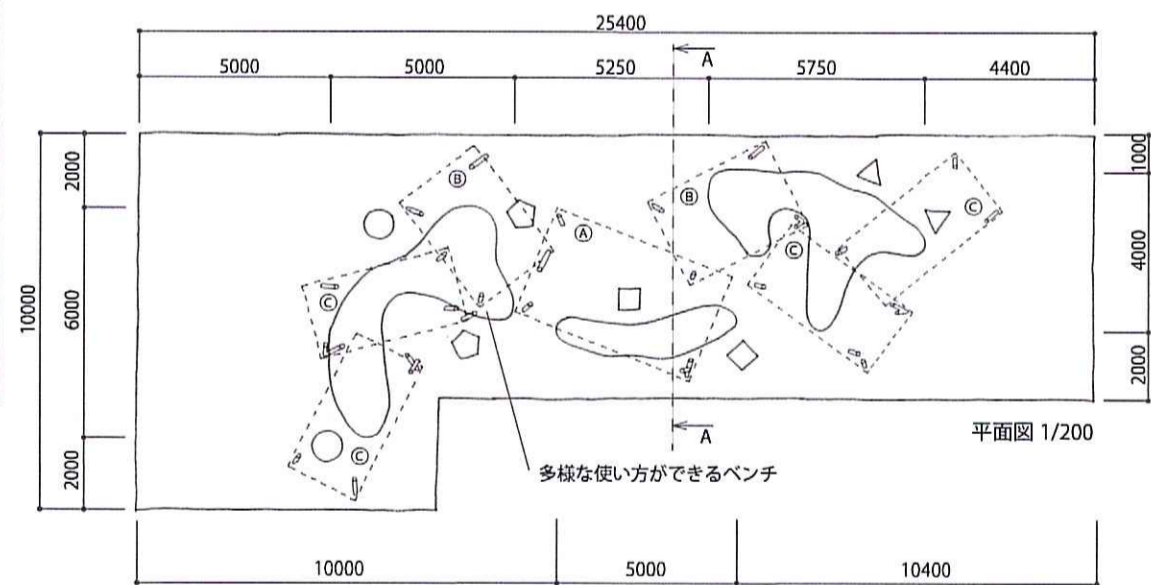
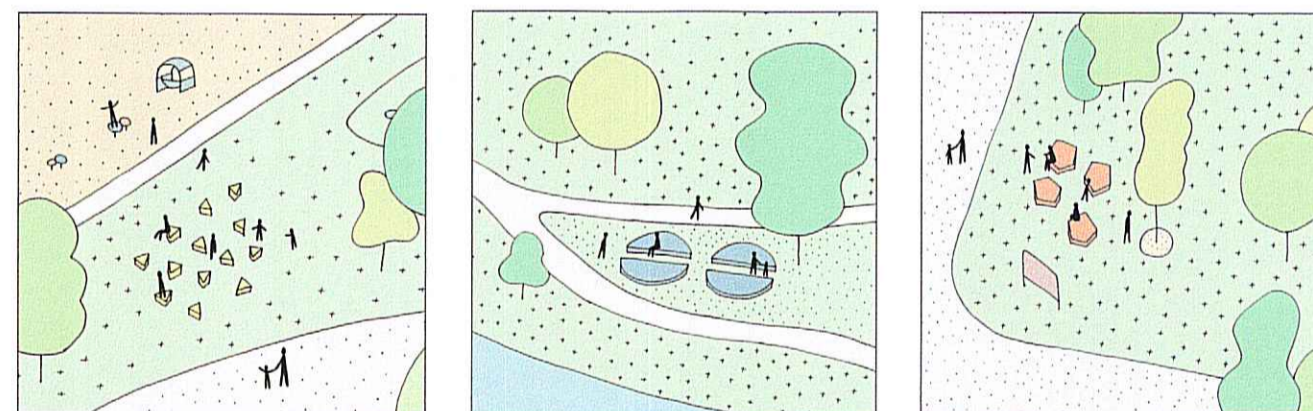
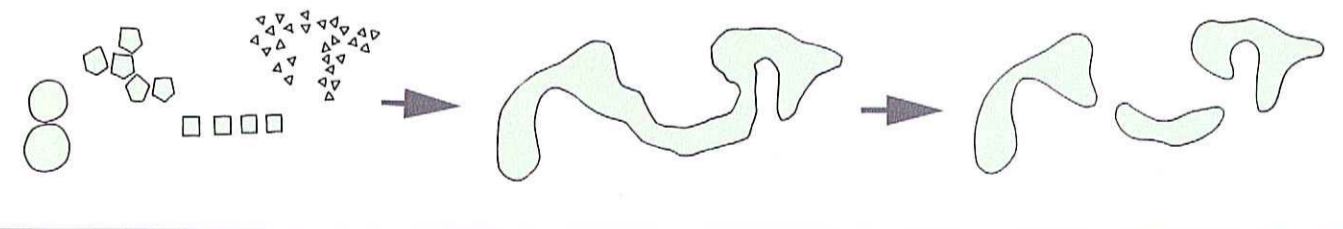
## イメージの図形化



## パース



敷地を住之江公園の縮図に見立て、図形を配置していく。バラバラだった図形を一つに繋げベンチの形を検討した。



仕上げ表		
建築面積	①	5.0m×3.0m×1
	②	3.5m×2.5m×2
	③	4.0m×2.0m×4
主な仕上げ	屋根	膜構造屋根
	柱	鉄骨柱(100Φ) 耐候性塗料
	ベンチ	デッキ材(イペ材) 耐候性塗料

各エリアごとにイメージを図形化したベンチを配置する。休憩所を起点にこのベンチが各エリアを繋ぐ接着剤となり、普段接点のない人たちが繋がる場所になる。そして繋がっていくことで住之江公園全体が一つの休憩所になっていく。(オプション提案)



アーチ状の屋根はステージにある像作物の形態をモチーフにデザイン

